

をもひさだめぬ。期をこそまち候つれ^二是。この上の法門はいにしえ申をき候き。めづらしからず。圓教の六郎位に觀行即と申は所行如所言^①所言如所行と云云。理即名字の人は圓人なれども、言のみありて眞なる事かたし。例せば外典の三墳五典等は讀人かづをしらず。かれがごとくに世ををさめふれまう事、千萬が一もかたし。されば世のをさまる事も又かたし。法華經は紙付に音をあげてよめども、彼の經文のごとくふれまう事わかたく候か。譬喩品云、見有讀誦書持^②經者、輕賤憎嫉而懷結恨。法師品云、如來現在猶多怨嫉。沉滅度後。勸持品云、加刀杖。乃至數數見擯出。安樂行品云、一切世間多怨難信。此等は經文には候へども何世にかゝるべしともしられず。過去の不輕菩薩、覺德比丘などこそ、身にあたりてよみまいらせて候けるとみへはんべれ。現在には正像二千年はさてをきぬ。末法に入ては此日本國には當時は日蓮一人みへ候か。昔の惡王の御時、多の聖僧の難に値候けるには、又所從眷屬等弟子檀那等いくそばくかなげき候けん^③と、今をもちてをしはかり候。今日蓮法華經一部よみて候。一句一偈に猶受記をかほれり。何況一部をやと、いよくたのもし。但をほけなく國土までとこそ、をもひて候へども、我と用られぬ世なれば力及ばず。

①第5紙13行圓 ②〔と〕一圓 ③わか圓 ④第6紙14行圓 ⑤第7紙13行圓 ⑥時=事圓